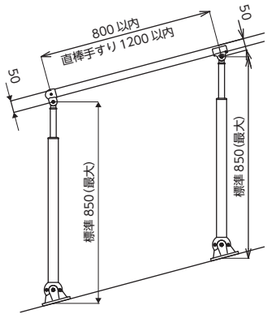
手すり棒の固定方法

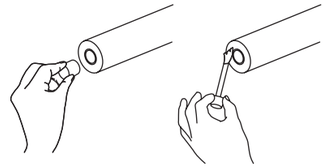
❶ 別紙取扱説明書/施工要領書の参考取付け方法において、手すりのエンド部をエンド支柱に置き換えて、下に示す寸法で他の支柱(もしくはその他ブラケット)との割付けを行います。



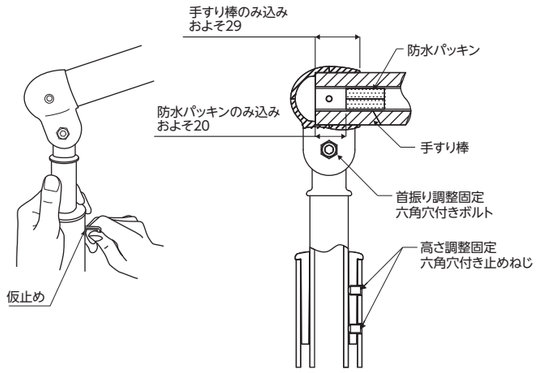
⚠注意

お願い 支柱の取付けピッチは、2本(個)使いは700mm以内、3本(個)以上使いでは800mm以内、直棒手すりでは1200mm以内としてください。
このピッチを守らないと、手すりが曲がったり、ねじのゆるみの原因になります。

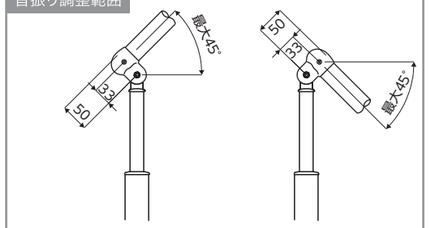
❷ 手すり棒端部芯材に防水パッキンを挿入し、手すり棒小口部に錆止め塗料ローバル(別売)を塗布します。
直棒手すりには防水パッキンとローバルは不要です。



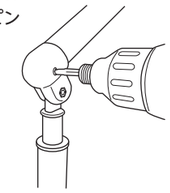
❸ 他の支柱(もしくは壁付ブラケット)を取付け後、手すり棒を仮置きし、首振り角度および高さを調整しながら手すり棒をエンド支柱に挿入します。



首振り調整範囲



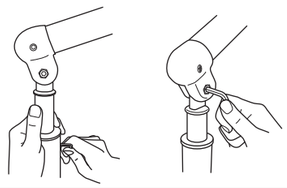
❹ φ3.3mmの下穴を開け、タッピンねじで締め付け、手すり棒を固定します。
(エンド支柱の背面に壁があり、壁側からのねじ止めが困難な場合は、正面のタッピンねじ1本のみの締め付けとなります。)



直棒手すりとの固定の場合

ポイント 固定方法は手すり棒と同様です。防水パッキン、ローバルは不要です。○図のように取付けねじは、リブを避けた位置で固定を行うと施工しやすくなります。

❺ 六角棒スパナで六角穴付きボルト・止めねじを本締めして完了です。



BAUHAUS

FreeR-rail

住宅用屋外手すり フリーRレール

施工要領書

勾配対応式エンド支柱専用カバー付 (BJ-55ST)

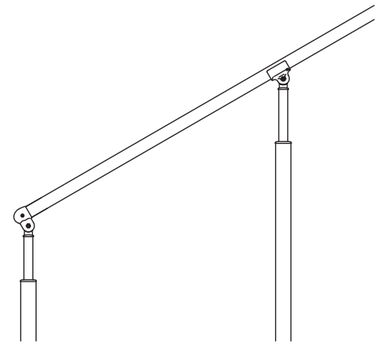
このたびは当社商品をお買い求めいただき
誠にありがとうございました。
ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。
お読みになった後もすぐ取出せる場所に大切に保管してください。

【施工業者様へ】
施工後は、お客様に必ず本書をお渡しください。

【お客様へ】
この説明書に書かれている注意事項は、必ず守ってください。
不適切な使用により事故が発生した場合、当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
転居される場合、次に入居される方にこの説明書をお渡しください。

本品の特徴

エンド部分専用の支柱です。すっきりした手すり端部納まりが実現できます。



マツ六株式会社
〒543-0051 大阪市天王寺区四天王寺1丁目5番47号
TEL 06-6774-2255 http://www.mazroc.co.jp

2014年09月15日[01]

安全上のご注意

施工前に本書をよくお読みの上、正しく施工してください。また、ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

用語および記号、絵表記の説明

⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。
△	△ 記号は、注意(警告を含む)を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容が描かれています。
⃠	⃠ 記号は、禁止の行為(してはいけないこと)を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容が描かれています。
●	● 記号は、行為を強制すること(必ずすること)を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容が描かれています。
ポイント	この表示は施工のポイントを示しています。これを行うことで施工し易くなります。

⚠注意

禁止

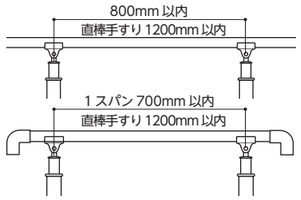
六角穴付き止めねじは仮止め時に強く締め付けないでください。

支柱の仮止めねじ(六角穴付き止めねじ)は仮止め時に強く締め過ぎると支柱にねじ跡が付くことがあります。施工が完了するまで、本締めしないでください。

必ず実行

支柱(ブラケット)ピッチは必ず守ってください。

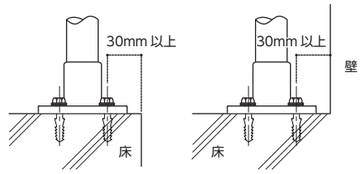
支柱(ブラケット)の取付けピッチは、2本(個)使いは700mm以内、3本(個)以上使いでは800mm以内、直棒手すりでは1200mm以内としてください。このピッチを守らないと、手すりが曲がったり、ねじのゆるみの原因になります。



必ず実行

壁や床端部とアンカー位置を必ず守ってください。

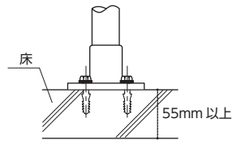
壁や床端部からアンカー位置は30mm以上離してください。チョークラインは65mm以上離してください。壁や床端部からアンカーを充分に離さない場合、充分な強度が出ない場合があります。



必ず実行

床厚に注意してください。

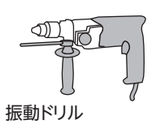
ナイロンアンカーの長さより、床厚が薄い場合、充分な強度を保てません。
床厚が55mm以上無い床の場合は取付けできません。

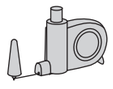


施工に必要な工具

電動ドリル

電動ドライバー


振動ドリル
(ドリル径10.0 、ALCの場合9.5)


チョークライン

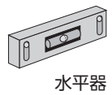
延長コード

コンベックス

金ノコ

ドリルビット
(φ3.3mm、φ10.0mm)

スパナ 13

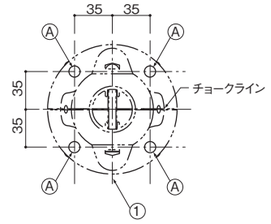

水平器

ヤスリ

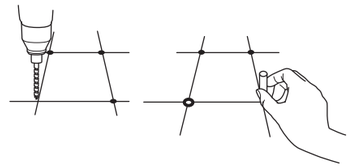
ベースプレートの取付け方法

❶ 別紙取扱説明書/施工要領書の参考取付け方法より割付けした支柱位置にラインと垂直な線を引きます。

❷ チョークラインと①のラインより、下図に基づきⒶ点を記します。



❸ マーキングしたA点に振動ドリル(ドリル径10mm)にて、深さ55mmの穴を開け、付属のナイロンアンカーMG10を挿入します。



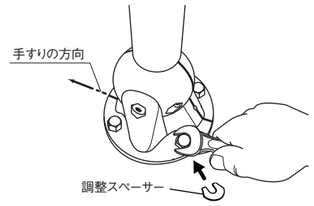
⚠注意

お願い
- ●アンカー穴はナイロンアンカー挿入前に充分に掃除してください。
- ●ナイロンアンカーは床面より出ないよう、挿入してください。

❹ 組み立てられた状態のままベースを穴位置に合わせ、座金およびバネ座金を介し、コーチスクリューで仮固定します。(コーチスクリューは締まらない程度にしておきます。)

付属の専用カバーはテープ等で支柱に取付けておきます。

水勾配等により支柱が垂直に立てられない場合は、調整スペーサーを地面とベースプレートの間に入れます。
調整スペーサーを使用する場合は1箇所につき2枚までです。対応可能水勾配は1／50までです。

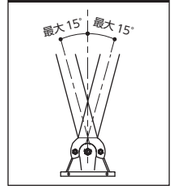


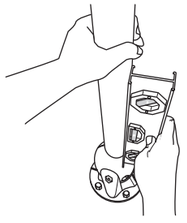
⚠注意

お願い ベースプレートは、目地の部分を手すりと平行とし、六角穴付きボルト側を正面に取付けてください。

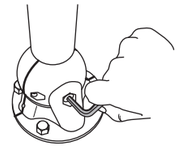
❺ ベースを固定させたまま支柱を動かし、水平器で支柱が垂直になるように調節します。(支柱が動かない場合は、ベースのM8六角穴付きボルトをゆるめてください。)

傾斜角度調整範囲

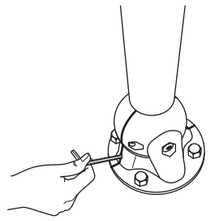




❻ 支柱の位置が決まりましたら、M8六角穴付きボルトをきつく締め込みます。



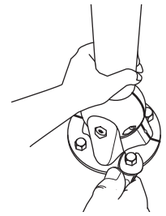
❼ 両側の押しねじを締め付けて、支柱の傾きを完全に固定します。



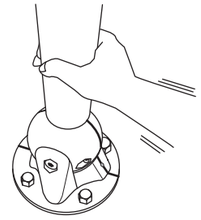
⚠注意

お願い
押しねじは本品が潰れない程度に軽く押し付けてください。

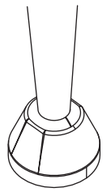
❽ コーチスクリューを本締めしてベースを固定します。



❾ ぐらつきが無いことを確認します。



❿ 最後にカバーをかぶせて完了です。



支柱の高さ調整方法（支柱を切断する場合）

金ノコ等切断工具にて希望の長さに切断してください。
ベースを一度取外した後、下面を切断し、ベース用の穴を開け直してください。

※ボルトを締め直す時は、締付トルク10 N･m以上で締付けてください。